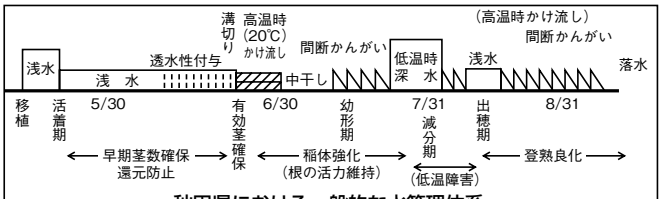
営農インフォメーション

水稲

～無理せず、計画的な作業を～

5月は育苗管理や耕起、代掻（しろかき）に田植え作業など、一年で最も忙しい時期となりますので、計画的に作業を行うことが重要となってきます。特に田植え作業は日中最高気温 20℃以上の日に行うのが最適で、最高気温が 15℃を下回る日や天候不順時（強風・低温）は田植え作業を見合わせましょう。

☆水管理



秋田県における一般的な水管理体系

(1)田植え～活着期

活着後（通常5日程度で活着）は、やや浅水にして水温・地温を高めてください。分げつの促進には気温日較差の大きいことが望ましいので、保温的水管理で分げつの促進に努めましょう。

(2)分げつ盛期

この時期は比較的水の必要度が少なく、また地水温の上昇によって土壌還元が進み、有害ガスの発生が多くなることから、根の健全化に注意してください。

☆除草剤

使用上の注意をよく読み、散布時期・散布量を守って、ムラのないようにしましょう。効果を十分発揮させるためには、漏水対策を徹底して、散布後4～5日は湛水状態（止水）とし、田面を露出させないようにしましょう。

一発除草剤（一覧）

使用時期	使用薬剤	使用量	使用回数
移植直後～移植後 30 日（ノビエ 3 葉期まで）	トップガン GT　1 kg 粒剤	1 kg ／ 10 a	1 回
移植直後～30 日（ノビエ 2.5 葉期まで）	バッチリ　1 kg 粒剤	1 kg ／ 10 a	
移植後 5 日～30 日（ノビエ 2.5 葉期まで）	エーワン　1 kg 粒剤 ボデーガード　1 kg 粒剤	1 kg ／ 10 a 1 kg ／ 10 a	
移植後 5 日～30 日（ノビエ 2.5 葉期まで）	イッテツフロアブル	500ml ／ 10 a	
移植直後～移植後 30 日（ノビエ 2.5 葉期まで）	サラブレット RX フロアブル イッポンフロアブル	500ml ／ 10 a 500ml ／ 10 a	
移植後 5 日～30 日（ノビエ 2.5 葉期まで）	スパークスター　1 kg 粒剤 パンチャー　1 kg 粒剤 シリウスターボ　1 kg 粒剤	1 kg ／ 10 a 1 kg ／ 10 a 1 kg ／ 10 a	

ねぎ

作業ポイントについて

☆夏ねぎ

【追肥と土寄】

①5月中の土寄せはレーキ等で株元に土をかける「削り込み」を2回程度行ってください。
畝の溝を埋め戻し、畝間が平らになる程度に留め、本格的な土寄せは6月になってから行います。
②追肥は土寄せの3～4日前に肥料散布を行い、肥料が分解してから土寄せをする。

【病害虫防除】

①活着後に発生する「小菌核腐敗病」と5月下旬ころの「べと病」に要注意。
②ネギハモグリバエ、ネギアザミウマの発生の多いところは、粒剤散布に安心せず、茎葉散布にも努めて下さい。

☆秋冬ねぎ

【育苗期間の防除】

①ネギハモグリバエは、越冬したさなぎが5月上旬ごろから成虫になり、ねぎの葉に産卵してから数日で幼虫となるので、加害痕に注意する。
②タマネギバエは、幼虫が地際部の茎内を食害するため、葉がしおれ、株腐敗する。発生時にはダントツ粒剤を株元に充分散布する。
③育苗期にべと病が発生する場合もあるので、テーク水和剤等の散布を行う。

【追肥】

追肥は生育と葉色を見て、追肥専用のＳ８４２を使用する（２～３回）

☆病害虫防除について

病害虫名	薬剤名	倍率	使用回数	使用回数
小菌核腐敗病	トップジンＭ水和剤	250 倍 1ℓ/ 箱、かん注	1 回	定植直前
		1,000 倍		
	ロブラール水和剤	1,000 倍	3 回	収穫 7 日前
タマネギバエ タネバエ	スタークル顆粒水和剤 ※1	0.5ℓ/箱、かん注	1 回	定植前日～定植時
	ダントツ粒剤 ※2	3~6 kg	3 回	植え溝 1 回(植付時) 株元 2 回(収穫 21 日前)
ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	ジメトエート粒剤	3 kg(育成初期)	3 回	収穫 30 日前

※1：前年、タマネギバエの被害の見られた圃場は、苗箱かん注処理をお勧めします。スタークルはアルバリンに代替できます（成分・使用基準同じ）
※2：4 月定植の作型はダントツ粒剤による防除を行う（ダントツ粒剤：ネギアザミウマ、ネギハモグリバエとの同時防除）

今月のあなたの運勢（2011 年 6 月）

牡羊座（3・21～4・19）　知識欲が旺盛になりそう。大型書店などに足を運び、興味のある事柄について調べて。ネットサーフィンも幸運